

いわいしま通信

祝島紹介 ～ 祝 ～

橋部 好明

「祝」を辞書で調べてみると、神をまつこと、神をまつ場所、神をまつる人とあります。そうした意味を込めて、「祝島」という名前が付けられている島、だから神の島ともいわれているのだなと思ひながら、島の歴史を調べていました。

4月19日、柳井市文化財保護審議会長・松岡睦彦さんや有志の人達と、先月、目星をつけていた、集落南西部（大遠地区）の尾根一帯を再調査しました。

古代祝島は、航海の安全を祈る祝部（はぶり）がいたとされ、確証を探していました。

大遠地区の尾根には、岩が沢山にむき出しになっていて、所々石が集められたり、石垣が積まれたり、他と違う景観でした。調査したところ、大規模な環状列石、弥生の箱式石棺らしきもの、多数の積み石塚、聖域を石列で囲む磐境（いわ

さか）があり、中央部に磐座（いわくら）神様の居られる場所の尊称が配置されていました。

「古代からの祭祀跡ではないか」との会長の説明を聞きながら、縄文、弥生から平安、鎌倉時代にかけて、代々祭祀を続けられたであろう聖域を、大切に保存しなければと痛感しました。

周辺には、線や刻画らしきものが刻まれている石が、多数残されています。その解明も待たれます。

万葉集にも、朝鮮半島にわたる、遣新羅史一行が祝島に向かって航海の保護を祈って詠んだ歌が残されています。

なお、秦の始皇帝に仙薬探しを命ぜられた徐福が、不老不死の秘果、コッコウをみつけ、迎えの船を待つ間、将棋をさしたという故事に出てくる、棋盤も近くで見つかり、時代考証の結果が楽しみです。

目次

祝島紹介	1
祝島の歴史を探る	2
魚・さかな・肴	4
花*花クイズ	4
会員リレーコラム	5
思い出のフォトグラフ	5
祝島懐かしの料理	6
祝島中野球部再創設史	8
Let's learn English in Iwaishima!	9
お知らせ&募集	10



調査の様子



伝説の「徐福の将棋盤」か？



祝島の昔の遊び「ぶつつけ」
絵・しげむらみちこ

<連載> 祝島の歴史を探る(9) ~万葉集に秘められた謎~ 蛭子 葉子

先月、明日香村・島庄遺跡で飛鳥時代屈指の豪族・蘇我馬子の邸宅跡とみられる掘立柱の遺構が見つかったとの報道がありました。『日本書紀』によると蘇我馬子は物部氏を滅ぼし、聖徳太子の十七条の憲法制定、遣隋使派遣にかかわったとされています。これに対し梅澤恵美子氏は、著書『額田王の謎』の中で蘇我氏と物部氏の関係について大変面白い推理をされています。犬猿の仲であるはずの蘇我宗家が実は物部氏の財力によって成り立っていたというのです。さらに額田王が卓越した宗教的権威をもった物部氏の巫女であり、それゆえ天智天皇は天武天皇から額田王を皇后として迎えない限り、政権を手にすることができなかったのではないかと考えて額田王の万葉歌に秘められた真実を解き明かしていきます。全ては物部・蘇我・天武と天智・藤原・持統の結び付きの対立により起こり、壬申の乱で政権を奪った天武天皇が『日本書紀』によってそのことを正当化し、正当なヤマト王朝の子孫である物部氏を歴史から抹殺してしまったと述べます。近年、『万葉集』は文学書としてだけでなく、何か政治的意図をもつ書ではないかという見直しが始まっていますが、梅澤氏の本を読んでいくうちに"万葉集が単なる歌集ではなく、歴史書、あるいは暗号書である。"という思いがますます強くなります。

では『万葉集』が正史『日本書紀』に語られなかった暗部を書いたのだとすれば祝島の二首の歌にはどのような意味と役割があるのでしょうか。その微かな手がかりとなるものが小串仙助氏・『姫島考』の以下のような文章から読み取れます。



祝島の二首が刻まれている「万葉の碑」

(中略)比賣神の住給ひし本縁も、風土記の文にていちじるし。即ち今もこの豊後と周防の間の海をすべて伊波比洋という。この洋中に伊波比嶋(祝島)といふありて万葉集の歌にも詠めり。大嶋のつぎて詠める歌どもに、「伊敷妣等波可敷里波也許等伊波比之麻、伊波比麻都良牟、多妣由久和禮乎。」「久左麻久良多妣由久比等乎伊波比之麻、伊久與布流末弓伊波比伎爾家牟。」とある是なり。乃ちこの島より出たる洋の名なり。今は言更にて、いはふ洋、いはみ洋、いはみ島、いはふ島など伝えり。

さて、比賣之麻を今は姫島と書き、比賣語曾の神を赤水明神といへり。石の祠にて、むかし女神の居住給ふといふ屋形山より三町ばかり海邊の岩山にあり。例祭三月三日にて、島人つど祭るなり。神體は木像にて、婦人の筆を持ち、齒を染むる容なり。古老の説に、元の神體は、祠の中に婦人の形のみ彫り付けありしといふぞ正しき傳なるべき。赤水明神とは、其の祠のある岩下より赤錆の鐵醬水流れ出、手を拍てば響き応じてほとばしるゆえに、拍子水となづけ、土人は明神の靈水なりといひ傳えたり。(中略)さらに古は島人もこの神を祭りけむをいつの世よりか、八幡宮を産神としてあがめ祭ることとなりぬ。社人あまた有りて、二季の祭典にぎはしけれど、赤水明神の祭礼は三月三日のみにて、八幡宮にはこよなく劣る。

小串氏は『古事記』にてでくる女島が比賣語曾の神祠のある豊後の姫嶋であると主張、現在ではほとんどの本が女島=国東郡の姫島となっています。

これを読むと姫島と祝島の相似に驚かされます。"赤水"という地名は祝島にもあり、八幡宮を産神としてあ



祝島と小祝島、そして遠くに姫島が見える
(長島の上盛山展望台から撮影)

がめるようになったという経緯もまったく同様です。この信仰の経緯は神舞の起源にかかわることで、いまだ未解決の天皇家・八幡信仰ともからみ複雑な歴史的背景があるかと思われますので、次回に書くとして、今回は"赤水明神"のことについて少し書きたいと思います。(この神様は神舞の十六神には含まれていません。)以前、祝島のことに詳しい唐木のおじさんからもらった葉書にこんなことが書いてありました。「祝島の西辻のてっぺんに広い全然海の見えない平地があります。"赤水"という地名でそこに蛭子は大変広い土地を持っています。山に隠れて田を作っていたのではないのでしょうか。水が豊富にあるところです。その水が北野の堤へ流れ込むように昔の人が水路を作っていたのです。北野から大きな声でよぶと聞こえる程西辻は近いところにあります。」私自身は赤水という場所に行ったことがないので詳細はわかりませんが、唐木のおじさんの話から推測すると姫島の"赤水"とよく似ています。しかも蛭子の庭には店を増築するまで"蛭子神"として祭っていた石の祠がありました。これらを読んで"蛭子神"として祭っていた祠はもしかしたら赤水に祭ってあった赤水明神ではなかったのかと考えるようになりました。もしそうだとしたら祝島も比賣語曾の神を赤水明神というようになったのでしょうか。三浦三軒 - 山野(中蛭子)説もこういうところか



ら派生しているのかもしれませんが、今のところそれ以上のことを推測する資料が見当たりません。

ここまで"赤水明神" "比賣語曾の神"にこだわるのは、国生み話の女島 = 姫島説に異論があり、姫島は大島の次に生まれる姫 = 小さいというには少し大きすぎるように思います。地理的なことからいっても、この祝島こそ国生みの大島の次に生まれたのではないのでしょうか。勝手な考えですが、みなさんはどう思われますか。それくらい古代史を探るうえで祝島が重要な位置をしめ、この島の歴史を知ることによって封印された日本の歴史をひもとくような発見があるのではという気がしてなりません。今後の文化財保護課の調査結果には大いに期待が募ります。



石上(イソノカミ)神宮



大神神社より一の鳥居方面を見る

ヤマト朝廷の祖とされるニギハヤヒと物部氏を祭る天理市にある石上神宮。現在も石上神宮から大神神社に至る三輪山一体は神聖な佇まいを残し、関西人の信仰の対象となっています。三輪明神大鳥居前、和菓子

屋さんの"みむろ"付き抹茶450円はお勧めです。"熱田津の"と歌い、白村江の戦いに出立した額田王も潮待ちで祝島に立ち寄り歌を詠んだのかもしれませんがね。

祝島ではイシダイの子供をカンサクといいます。春の終わり頃から波止の中で泳いでいます。模様の似ている魚にオヤビッチャとかロクセスズメダイというのがいます。この二種はスズメダイの仲間です。

スズメダイは祝島ではオセンコウとかヤハギやヤハンドウとか言います。ヤハギはスズメダイ科の中では一番寒いところで住める種類のようにです。オヤビッチャやロクセスズメダイが祝島で見られるのは夏だけです。黒潮に乗って祝島まで来たのでしょうか、夏の盛りに子供が泳いでいます。一年間祝島で過ごすことは無理なのでしょう。冬が近くなると姿を消します。

カンサクは大きくなると祝島ではクロクチと呼ばれます。雌と雄では薄くなる度合いが違いますが、縞が薄くなり、口の周りが黒くなるからでしょう。クロクチになると刺身など旨い魚です。めったに味わうことはないのですが、これから夏が旬と言うことです。

近い仲間にイシガキダイがいます。小さいのが稀に釣れるからいるのでしょうか、大きいのはなかなか見る機会がありません。

オセンコウは祝島では焼いたり、セゴシにしたりします。南蛮漬けもいと思います。昔はヨツアミでひいていました。実際見たことがないのですが、四角の網を沈めて、中央の餌に集まったところを引き上げる取り方です。



カンサク



ヤハギ



左がヤハギ、右がデンゴのセゴシ

<連載> 花*花クイズ(8)

橋部 好明



前回の花*花クイズの答えは「ノゲシ」です。祝島では一年中見られます。ノゲシと名がつくのに、ハルノゲシ、アキノノゲシ、オキノゲシがあります。

オキノゲシはヨーロッパ原産だといわれています。オキノゲシは、名の通り、葉が荒っぽい感じがしますが、ノゲシは、育つ場所の条件で大きさが相当違いますので、見分けるのが難しいです。

アザミのように葉に棘があるけど、陽を受けた花は、とてもきれいです。

さて、今回の花は？ さすが祝島。蓬莱島とも言われるほどに、薬草が多くあります。



会員リレーコラム(9) ~ 渡辺竜生さん ~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第9回目は、「まだ一度も祝島に足を踏み入れたことがない」という貴重(?)な会員、渡辺竜生さんの登場です。



みなさんこんにちは。渡辺竜生(わたなべたつお)と申します。1964年生まれ、40歳です。現在住んでいるところは神奈川県相模原市で、そこから毎日東京の職場へ通っている、いわゆる典型的な神奈川都民です。祝島の出身ではないのですが、ふとしたことがきっかけで國弘さんのWebサイトを訪れるようになり、祝島ネット21の会員になりました。

実家は山口市にありまして、高校卒業までそこで暮らしていました。小さい頃から釣りが好きだったこともあって、大学時代は長野県の湖や河川で魚の生態を調べながら過ごしました。また、卒業後は東京の環境

調査会社に就職し、鳥の数を数えたり、昆虫やネズミを採集をしたり、魚を捕って標識を付けて放したり...といった、変わった仕事をしていました。そんな生活を結構気に入っていたのですが、1991年、諸般の事情で転職しました。

転職先の会社(現在の勤務先)は大学時代の友人が作った会社で、最初は熱帯魚の入った水槽を企業にリース(定期的なメンテナンス付き)してお金をもらう、という仕事をしていました。その後、徐々に水族館や活魚の水槽設計・施工、熱帯魚の飼育用品の輸入・卸売、犬の洋服のデザイン・卸売...と業務内容を拡大して、今日に至っております。と書くと、随分と大きな会社のように思われるかもしれませんが、その実態は社長もバイトも入れて10人の零細企業です(笑)。そんな怪しげな会社で、現在私は販売管理と社内のパソコンの世話をして暮らしています。また、合間を見てパソコンの解説書の執筆を請け負うこともあります(サイドビジネスではなく、それも会社の仕事なんです)。最近では販売管理の方が忙しいため、あまり書いておりません。万が一本屋で見かけたら笑ってやってください。

神舞や石堀の続く風景など、同じ山口県内にありながら、自分が知っている世界とはちょっと違う文化の香りがする祝島は、子供の頃から興味がありました。残念ながら、私は祝島を一度も訪れることができないまま山口を離れてしまいましたが、機会があればぜひ訪れてみたいと思っております(最近では年末年始に数日帰省するのがやっと、という状況なので難しいのですが...)。それまで、この会報やメーリングリストの情報で、島のことを少しでも勉強しておこうと思っております。

これからどうぞよろしくお願いたします。

思い出のフォトグラフ



國弘 秀人

昭和42年度の保育園卒業写真です。このときは同級生が37人いましたが、その後3人が仲間入りし、7人転校して、中学校卒業のときは33人でした。

ちなみに、この中に祝島ネット21の会員が8名います。どれが誰だかわかりますか？

<連載> 『聞いてみん菜・食べてみん菜』 祝島懐かしの料理(5) ~カタクリ~

祝島・食べてみ隊

幼いころ、おなかを壊したり風邪をひいたりしたとき、片栗粉を熱いお湯で溶いた物をふうふう言いながら食べた記憶はありませんか。最近葛湯が手軽に手に入るのに葛湯を食することが多いかと思いますが、葛湯よりもっととろみがあったような気がします。

片栗粉というからには、カタクリという植物からとったものだとばかりずっと思い込んでいました。ところがそうではないのです。市中に多く出回っている片栗粉は実はジャガイモのでんぷんだと知ったのは、つい最近のことでした。昔、カタクリを溶かすときに、母親から、今日のカタクリは祝島のじゃないから火にかけないとだめよ、と言われていたものです



写真



写真



写真

が、ははぁ原料がジャガイモだったからかと初めて合点がきました。とすると、祝島のは本物のカタクリの根なんだと、これもごく最近まで思い込んでいました。ところがこれも違っていただけですね。

祝島のカタクリは実はウバユリだと知ったのはほんの1 - 2年前のことです。本物のカタクリってどんなんだろうと、4月上旬、神奈川県にある群生地に行ってきました。写真がそれですが、もう終わりかけていて、ぱらぱらとしか咲いていませんでした。写真が祝島のカタクリすなわちウバユリの花です。



写真

の写真、左が球根付きのウバユリ。球根を取らずに放っておけば右のように球根が無くなり、花を咲かせるようになります。つまり、花になるための栄養を我々人間がそっくり頂いてしまうというわけです。



写真

写真 は の球根を洗ったところ。ラッキョウのように1枚皮をむけばきれいになるのではなく、けっこう中の方まで泥が入っているので、バラしてきれいに洗わなくてはなりません。この作業が意外と手間がかかります。こうしてきれいに洗ったあとミキサーを

使ってつぶします。昔は臼でつぶしていたそうです。そうしてつぶした物をサラシの袋に入れて、真水の中でもみ出します。ネバネバしていて、かなりの力が必要です。



写真

水を替えながら4～5回くらいもみだして、それを桶にためておきます。桶にためたものを、しばらく置いておくと、下に白いものがたまるので(写真)上の濁った水だけ捨てて、また水を入れて、かき混ぜて、さらにさらしておきます。これを4～5回繰り返すと、だんだんきれいになってきます。

水がきれいになったら乾かす作業に移ります。木箱の底に灰を敷いて、その上に新聞紙を敷きます。さらにその上に白い木綿などのきれいな布を敷き、その上に、桶からこさぎ出したカタクリを広げます。灰が水分を吸収し、カタクリが塊になったら、それを砕いて干します。これが写真の左の箱のような状態です。写真右の箱のようなサラサラな状態になるまで2～3日かかります。サラサラになったら片栗粉の出来上がり。



写真



写真

はウバユリのでんぷんの顕微鏡写真ですが、木村涼君に提供していただきました。

現在日本カタクリ(写真)は非常に数が減っていて、数少ない群生地では、地域の方々が保護に懸命になっていらっしゃるようです。

祝島のカタクリは大変おいしいのですが、これもやはり量に限りのある貴重品です。こうして作られた片栗粉は、たまに島のお店で見かけることがありますが、なかなか手に入りづらいようです。



写真

さて、カタクリのたて方は超簡単です。お椀などにカタクリ(だいたいスプーン2杯くらい)と砂糖を適量に入れて混ぜ合わせ、そこに熱湯をかけ、すばやくかき混ぜると、ハイ出来上がり。熱湯をかける前に少量の水で溶いておくとダマにならずにうまく作れるようです。それから、熱湯はできるだけ熱いものを使いましょう。インスタントコーヒーと一緒に混ぜても美味しいですよ。

< 特別寄稿 > 祝島中野球部再創設史 『君の瞳は100万ボルト』

～ 第1話 木漏れ日の若芽と共に・・・～

祝島中学校教員・松村文彦

「赴任校は祝島中学校なんですけれど宜しいでしょうか。」

窓に目を凝らせば早春の弥生雨。この要請を承諾したとき、私の脳裏には様々な展望が飛び交った。島に移り住むことになる、再び一人暮らしができる、大好きな海のそばで生活することが出来る。元来、海の中で生まれ育ちたかった私にとって今回の就職先は運命付けられた場所だったのかもしれない。そして、同時に気になったことが一つ。「生徒は何名なのか？」

実家に帰り親が3月のとある日の中国新聞記事を指差す。そこには祝島小学校卒業式の記事と休校の記事が併載されていた。そして文中に一言、「来年度からは中学生3名のみ」と。記事を目にした瞬間、頭の先端に眩いばかりの光明が差し込んだ。なんと充実した教育環境。教員生活一年目の私にとっては贅沢な条件この上ないではないか。とりあえず体当たりの教員生活だな。島にいるときは好きな野球は当分封印だ。生徒も3人なんだし。こんな決意を胸に秘め、松村文彦弱冠24歳の社会人第一歩が、静かな音と共に揺ぎ無く動き始めた。

入学式を終えたその直後、新一年生の親御さんからとある言葉を頂いた。「この子は野球が好きなので、やりたくて仕方がないんですよ。野球経験のある先生に来てもらって良かった。」そうか、この島の子は野球をしたくてもできないんだ。できるのはキャッチボールとバッティングぐらいで、9人对9人の野球らしい野球はやったことがない、いや、やりたくてもすること

ができないのだ。改めて自分が歩んできた環境に幸せを感じる瞬間であった。

学校で部活動再開の動きがあった。生徒数の減少で当分の間活動されてなかったが、少ない生徒数だからこそ活動する意義があるのではないかと、という方向性だ。基本は生徒のニーズに答える形で教員がサポートする部活動を立ち上げるというもの。私は「野球を始めとする諸々のスポーツ部を受け持つことが可能」と担当教諭に伝えた。生徒の要望はというと、3人の中で1名ほど野球部希望を出した。入部意思があったのは先ほどの新入生。私はすぐさま実家に帰り、野球道具一式を祝島に持参する準備に取り掛かった。祝島で野球をするなど思ってもみなかった私にとって、今回の野球部復活は新たなチャレンジでもあった。そして生徒にとっては人生最初の部活動であり、祝島中学校にとっては37年ぶりの野球部復活劇であったのだ。まだ社会の右も左もよくわからない私は、祝島中学校野球部史の重みを肩に程よく感じながら生徒・教員2人の野球部活動を始めた。内容は野球部というより投手部。最初に取り掛かったのはキャッチボールでもランニングでもなくマウンド作り。今までの野球人生においてマウンドとはグラウンドに併設されているものだと思い込んでいた私にとって、この山作りは新たな壁(山?)となって我々の前に立ちはだかつたのである。山はくずれ作業は思うようにはかどらない。けれどもマウンド作りという未知なる領域の作業によって、2人の間には早くも「野球」という太い絆が構築され始めていたのである。

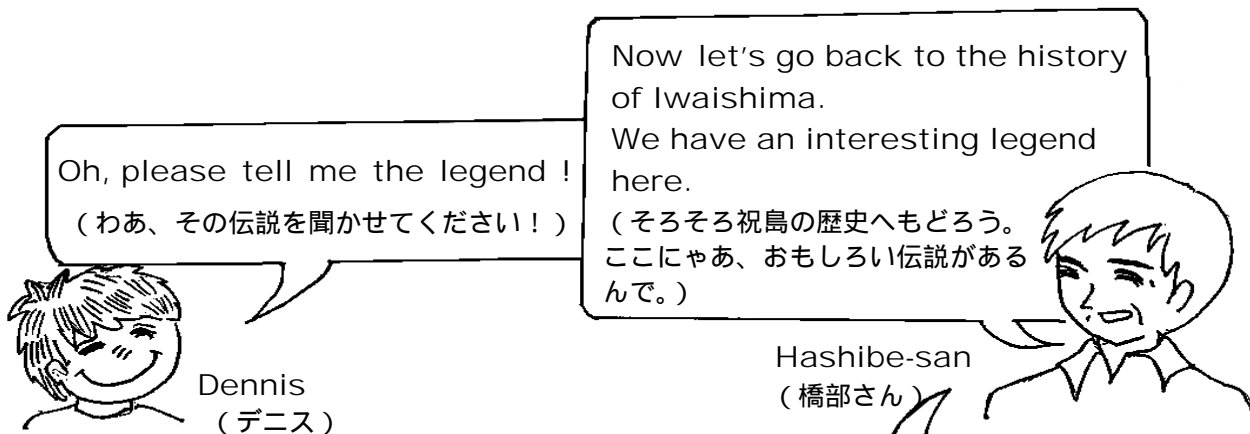
< 第1話 完 >



37年ぶりに復活した祝島中野球部のエース・清水くん(手作りのマウンドで投球練習)

Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (8)

* デニス是我的友達です。



Oh, please tell me the legend !
(わあ、その伝説を聞かせてください！)

Dennis
(デニス)

Now let's go back to the history of Iwaishima.
We have an interesting legend here.
(そろそろ祝島の歴史へもどろう。ここにゃあ、おもしろい伝説があるんで。)

Hashibe-san
(橋部さん)

Long time ago, almost 2,000 years ago, there was a man whose name was Jofuku in China. It was the era of Shin at that time. Jofuku was ordered to look for an anti-aging (ageless) medicine by the emperor, Shikoutei.

(昔、そうじゃのんたあ 2000年くらい前じゃろうか。中国に徐福いう男がおったんじゃあ。当時、秦の時代じゃったんで。徐福は、始皇帝に不老不死の薬を探して来るように命令されたんじゃあ。)

Iwaishima was a paradise that had anti-aging fruits called Kokko. We hear that once we eat it, we can live a thousand years. So Jofuku came to Iwaishima and stayed in Miura to get Kokko fruits in autumn.

(祝島は“コッコ”いう不老不死の実がある楽園じゃった。そりょう食べたら1000年生きられる言われちよったんと。ほいで徐福は祝島に来て、秋にコッコの実を採ろうとて、三浦におったんといで。)



Wow, what a mysterious legend (story) !!
(へえ、すごい神秘的な伝説だね！)

(あらすじ)
祝島の歴史を知りたくなったデニスは、橋部さんにいろいろと話を聞いています。前号まで、藤永さんとフミちゃんが乱入して、話が逸れていましたが、ようやく本題の祝島の歴史の話に戻ったようですね。祝島の歴史といえば、やはり「徐福伝説」の話は欠かせませんね。

活動紹介

ベルマーク集め

皆さんから送られてきたベルマークの現時点での集計ができましたので、お知らせします。現在、約2500点が集まりました。37年ぶりに復活した祝島中・野球部にボールくらいはプレゼントできるのではないかと考えています。

今後も活動は続けますので、ご協力よろしくお願いたします。個人で集められたベルマークは、事務局まで郵送または、祝島に帰省される時に直接お持ちいただいても結構です。

点数の集計、分類作業をやっていたいただいた花田さん、ご苦労様でした。



お知らせ & 募集

「祝島フォトコンテスト」計画中です

今年は神舞が催されるということもあり、「祝島フォトコンテスト」を実施してみようと計画中です。募集期間は5月から10月くらいまでで、審査は写真家を含めた何人かの審査員の他、祝島中学校の学習発表会の場を借りて、島民の皆さんにも審査していただくようにしようと考えています。また、優秀作品は来年のカレンダーやポスターなどに利用させていただくつもりです。

詳細は決まり次第、メーリングリストやホームページなどでお知らせします。会員の皆さんからの作品応募も大歓迎ですので、どしどしご応募ください。

「Yahoo!グループ」へ移行しました

祝島関係の新聞記事の切り抜き画像や写真などを会員間で共有するために使っていた「Yahoo!eグループ」が、2月から「Yahoo!グループ」に変わりました。チャットやメッセージ機能、フォトアルバム機能などが追加されましたので、有効にご利用ください。

この移行に伴って、祝島ネット21のページは下記のアドレスに変わりました。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/i-net21/>

今まで登録されていた方も、Yahoo!IDを取得するなどの手続きが必要です。また、新たに登録を希望される方は、まずYahoo!IDを取得した上で、Yahoo!グループの祝島ネット21のページにアクセスして登録申請をしてください。

eグループから移行される方も、新たに登録される方も、下記のページから手続きができます。

<http://groups.yahoo.co.jp/local/promotions/yid/index.html>

編集後記

皆さんお元気ですか？ 「目に青葉、山ほととぎす、初鯉」の爽やかな季節になりました。祝島の山では、びわの袋かけ作業も終盤を迎え、早いところでは実がだいぶ大きくなっているようです。あと一月も経てば、出荷の時期がやってきます。びわ農家は一年で一番忙しいシーズンを迎えます。今回の「祝島懐かし料理」に登場したカタクリも5月の連休が明けた頃に「口開け」（解禁）になり、島のオジン・オバンたちは朝早くからユリ根を掘りに山に出かけます。

さて、今回の会報から、祝島中の松村先生からの特別寄稿ということで、37年ぶりに復活した祝島中野球部の汗と涙と笑いの物語を連載で書いていただこうと思います。お楽しみに！ところで、ここだけの話ですが、松村先生はあの松村邦洋さんの親戚にあたるようです。

いよいよゴールデンウィークです。今年は休日が続くので祝島に帰省される方も多いのではないのでしょうか。帰省された際はぜひ蓬萊館にもお立ち寄りください。コーヒーと缶ビールくらいはサービスしますよ。

次号は7月発行の予定です。次号でこの会報も10号という節目を迎えます。また、神舞の直前ということもありますので、神舞特集でも組めればいいなあ・・・とっております。（編集長：國弘秀人）

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想・身近な情報など、お気軽に投稿してください。祝島ネット21では随時会員を募集しています。

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



山桜と瀬戸内海